

## Contents

1. 男子インカレ 団体3位
2. 女子インカレ 優勝杯奪還！
3. 女子インカレ金沢遠征助成金協賛のお礼と報告
4. 2021年度インカレ及び年間総括
5. 新体制のお知らせ・主将抱負
6. 鈴木梨羅先輩 世界選手権で銀メダル獲得！
7. 松本潮霞先輩 現役引退のご報告
8. 全日本選手権結果 9. リレー寄稿 あの先輩はいま
10. ご支援のお願い (再掲)
11. 2021年度総会のご案内



大学公認最高記録を更新した佐藤康太郎選手

## 男子インカレ 団体3位

12月7日～9日、埼玉県さいたま市のサイデン化学アリーナで男子のインカレ I 部が開催されました。

73kg級で佐藤康太郎選手、81kg級で生頼啓暉選手、109kg級で柏木良太選手が優勝を果たすなど選手10人で合計134点を獲得し、前年度に続き団体戦3位の好成績を収めました。

令和3年度 第67回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会 (I部)

階級	選手名	学部学年	体重	BEST						TOTAL		
				S	順位	点数	C&J	順位	点数	記録	順位	点数
M55	家吉理空	社学3	54.85	84	9位	0	106	9位	0	190	9位	0
M61	上野大瑚	スポ4	60.75	99	5位	4	120	8位	1	219	6位	3
M61	宮下一心	社学3	60.85	105	3位	6	141	2位	7	246	3位	6
M73	佐藤康太郎	スポ3	72.8	144 CR	1位	8	176 CR	1位	8	320 CR	1位	8
M81	生頼啓暉	スポ4	77.6	129	3位	6	164	1位	8	293	1位	8
M81	駒阪勇氣	スポ2	79.5	129	2位	7	157	5位	4	286	4位	5
M89	西野溪心	スポ4	85.7	132	4位	5	150	9位	0	282	8位	1
M96	岡村幸尚	社学4	95.55	121	7位	2	158	5位	4	279	7位	2
M109	柏木良太	スポ3	105.05	147 CR	1位	8	179	2位	7	326 CR	1位	8
M+109	西堅也	スポ3	137.35	131	8位	1	166	5位	4	297	6位	3

【学部表記凡例】スポ：スポーツ科学部 社学：社会科学部

【記録表記凡例】C：大会 R：新記録

合計 134点  
団体総合 3位



89kg級 西野溪心選手



61kg級 宮下一心選手

# 女子インカレ 優勝杯奪還！



表彰式後に女子全員で記念撮影

12月16日～17日、石川県金沢市の金沢市総合体育館で女子のインカレが開催されました。

東京国際大・九州国際大と三つ巴の争いで、最後まで予断を許さない展開となりましたが、早稲田は8人中7人が表彰台に上がるなど選手全員が順調に得点を重ね、三連覇を狙う東京国際大を抑えて、2017年以来となる団体戦優勝を果たしました。

ご支援をいただいた皆さま、応援していただいた皆さまに心よりお礼申し上げます。

令和3年度 第67回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会(女子)

階級	選手名	学部学年	体重	BEST						TOTAL		
				S	順位	点数	C&J	順位	点数	記録	順位	点数
W45	鈴木莉乃	スポ3	44.9	61	2位	5	82	1位	6	143	2位	5
W55	原沙織	スポ3	54.8	75	3位	4	103 CR	1位	6	178	3位	4
W55	原志歩	スポ1	54.8	82	2位	5	102 CR	2位	5	184 CR	2位	5
W59	山口千尋	スポ4	58.3	77	4位	3	103	2位	5	180	2位	5
W64	橋本夏実	スポ1	59.65	80	4位	3	103	3位	4	183	4位	3
W71	田中美奈	スポ2	70.9	84	4位	3	109	3位	4	193	3位	4
W76	伊藤紗彩	スポ2	71.45	84	2位	5	106	2位	5	190	2位	5
W+87	吉田琴乃	スポ2	107.85	84	2位	5	106	3位	4	190	2位	5
											合計	108点
											団体総合	1位

【学部表記凡例】スポ:スポーツ科学部

【記録表記凡例】C:大会 R:新記録

2021年度女子主将の山口千尋です。昨年、12月に行われた女子インカレで4年ぶりに優勝することが出来ました。これもひとえに、日頃から支えてくださる皆さまのおかげだと実感しております。

今大会は最後の階級が終わるまで優勝の行方が分からない展開で、決して簡単に優勝できたわけではありません。ブログにも書かせていただいたように、部員全員が完璧な状態ではなく不安を多く抱えた状態で試合に望むことになりました。しかし、部員一人ひとりの優勝に対する気持ちの強さと、監督・コーチ陣の完璧な重量選択、また運も味方してくれたようでこのような結果を得ることができました。一年間部員皆で活動して、辛い時も嬉しい時も共に歩んできました。そんな仲間たちの笑顔を見ることができ、女子主将として達成感を感じました。

最後になりますが、お忙しいなか私たちを支えてくださった部長・監督はじめコーチ陣、OB・OG、ご家族の皆さまに深くお礼申し上げます。

また、今年度もこれまでと変わらぬ応援をよろしくお願いいたします。

山口千尋 (スポーツ科学部4年)



59kg級 山口千尋選手

# 女子インカレ金沢遠征助成金協賛のお礼と報告

女子インカレ金沢遠征に向けた助成金に対し、多大なるご支援を賜りました。心から感謝申し上げます。このたびの募金にご協力いただいた皆さまのお名前をご紹介します。

◆助成金協賛総額 590,000円

◆寄付者ご芳名 ※敬称略

島田雄章(S37)	山内英雄(S42)	村岡芳彦(S44)	上野稔(S45)	岡田正三(S45)
谷川吉史(S45)	鵜飼信一(S46)	牧野雄児(S46)	岩永勉(S47)	正木隆至(S48)
野口清志(S49)	鷺田徹夫(S49)	石橋義久(S51)	志田典明(S51)	町田直明(S52)
海崎良仙(S54)	相場浩徳(S58)	猪狩英則(S59)	加納修(S59)	松澤晋(S59)
野中弘一(H01)	根本進(H05)	森田稔哉(H07)	清水大輔(H11)	

皆さまからいただいた助成金は部員・指導スタッフの遠征費用の一部としてありがたく使わせていただきました。また、ご支援いただいた皆さまには、部から女子インカレ出場選手8名の署名が入ったお礼状と、部オリジナルデザインのマウスカバー・ナップサック（北九州遠征に続きご支援いただいた方）を送付させていただきました。

拝啓

厳寒の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度は、過分なご寄付を賜りまして、誠に有難うございました。

ご厚志に関しましては、昨年末に石川県で開催されました全日本大学対抗女子選手権大会にて、有効に活用させていただきました。

また、先の大会では5年ぶりの団体優勝を果たすことが出来ました。これもひとえに皆様からのご声援があつての結果であると存じます。今後ご期待に応えるべく精進して参りますので、変わらぬご支援のほどよろしく願いいたします。

ささやかではありますが、お礼の品を同封させていただきました。ご受納いただければ幸甚でございます。

略儀ではございますが、書面にて御礼申し上げます。

いまだに先の見通しがつき辛い状況が続きますが、くれぐれもご自愛ください。

令和4年1月26日

早稲田大学ウエイトリフティング部

OB係 吉武温子

45kg級 鈴木莉乃 64kg級 橋本夏実  
55kg級 原 沙織 71kg級 田中美奈  
55kg級 原 志歩 76kg級 伊藤 紗彩  
59kg級 山口 十寿 +87kg級 吉田 琴乃



堀井コーチに2021年度の振り返りとともにインカレを総括してもらいました。

2021年度を振り返ると、最初に出てくるのはやはりインカレである。女子は4年振りの団体優勝、男子は団体3位と素晴らしい結果を残すことができた。

女子は2019年・2020年と2年続けて2点差で2位、誰かがあと1本成功していればという悔しい結果が続いていた。今年度は8名中7名が3位以内となり、個人優勝者は出なかったものの、勝負所で試技を成功させる選手が多かった。成功率もチーム平均で4.75本と、昨年の4.375本より向上し、+87kg級の終盤まで続いた団体戦の優勝争いを制することができた。

男子は昨年と同じ団体3位であったが、早稲田インカレ史上初となる3名の個人優勝を核に順調に得点した。最後は+105kg級の西がプレッシャーもかかるなか団体順位を確定させる試技に成功するなど、今年度は男女ともに良い流れで団体戦を展開していくことができた。

選手たちの活躍を個々に紹介しながらインカレを振り返りたいところであるが、スペースの都合もあるため、前掲のインカレ結果報告の欄をご覧いただきたい。ここでは、男子は4年・西野、女子は1年・橋本の活躍を紹介させていただきます。

西野は昨年のインカレで2位となり今年度も活躍を期待されていたが、10月の全日本学生個人戦で左肘に怪我を負い、万全の状態ではインカレに臨むことができなかった。さらにインカレではC&J第2試技で右肘を痛めてしまった。第3試技は棄権も考えたが、本人は果敢に挑み、4年生の意地を後輩たちに見せてくれた。

橋本は59kg級の選手でありながら団体戦の布陣として64kg級に出場した。1階級上の選手たちとの厳しい試合だったが、結果は5本成功で4位と奮闘した。トータルは183kgで59kg級では2位に相当する記録である。2022年度さらなる活躍を期待したい。

これらの成績を残すことができたのは、インカレに出場できなかった選手も含め4年生を中心に全員が同じ目標を持ってインカレに臨むことができたからだと思う。個々人が自身の目標と団体としての目標を書いた紙が教場に掲示されていたが、男子の団体目標には「打倒法政・日大」、女子の団体目標には「絶対優勝」と書かれた紙がずらりと並んでいた。特に4年生女子はインカレに出場したのが女子主将の山口のみと悔しい思いをしたらう。それでもインカレ直前まで自己新記録を出す4年生の姿は後輩たちに良い影響を与えてくれた。

今年度も夏合宿は中止せざるを得ず、部員全員が揃ったのも3回のみと普段ばらばらに生活し練習している部員たちをまとめるのは前年度に引き続き難しかったのでは思う。男子は新入部員に早く慣れてもらうため、練習後に三密とならないよう注意しながら座談会を何度も開催し、インカレ前は男女で互いに色紙と応援動画を準備し、松本・鈴木両コーチの国際試合前に応援動画を撮影するなど練習以外の活動も大切にしてきたからこそチームが一つにまとまった。

もちろん最初からすべてが上手くいくわけもなく、コロナ禍の制限で4年生だけでは解決できない問題も多くあった。東インカレの翌週に行われた全員参加のミーティングでは後輩たちから忌憚無い意見が多く出た。後輩たちの意見に素直に耳を傾け、変えられるルールと変えられないルールの切り分けや、新しい取り組みを始めるなど、このような時世だからこそ後輩たちも巻き込みながら今年度のチームを4年生が作り上げてくれた。

4月には新入生を迎え入れ、新たなチームとなるが、このメンバーなら我が部の悲願である「男女同時優勝」を実現できるのではないかと希望が持てる一年であった。原沙織（新女子主将・写真右）と原志歩（1年・写真左）のご両親からいただいたエンジの達磨の右目に目入れをするのが今から楽しみである。

堀井勇也（コーチ・H27卒）



エンジの達磨を囲む原姉妹

宮下主将を中心に部の新体制が始動しました。

主将	宮下一心（社会科学部3年）
副将/女子主将	原沙織（スポーツ科学部3年）
主務	久保美波（社会科学部3年）
副務	加茂千弦（スポーツ科学部2年）

主将、女子主将に抱負を伺いました。皆さま、応援よろしくお願ひいたします。

## 主将 宮下一心

このたび早稲田大学ウエイトリフティング部主将になりました、宮下一心です。

昨年のインカレは女子優勝、男子3位という結果を残すことができました。1位と2位、3位には大きな壁があります。この壁は登ることは難しい反面、容易に落ちてしまうものだと思います。昨年の結果に驕ることなく、今年は「男女共に優勝」という目標に向けてチーム一丸となって、より一層努力していく所存です。

コロナ禍で制約があり、チームとしての活動で得られるものが少なくなりつつあるなか、目標を達成するには部員個々人が団体・個人としての目標をしっかりと自覚し、日々の行動に反映させ続けることが不可欠です。競技力が高く頼りになる部員ばかりですが、その力を団体として発揮するには競技以外でも自分の役割を見つける必要があります。4月から新入生を迎え入れますが、全員が早稲田大学ウエイトリフティング部の一員として、強く熱い気持ちを持って活動できるよう、主将として誠心誠意取り組んでまいります。

## 副将/女子主将 原沙織

早稲田大学ウエイトリフティング部副将・女子主将を務めさせていただきます、原沙織です。

昨年行われた女子のインカレでは、部長・監督はじめコーチ陣、OB・OG皆様のお力添えにより、団体優勝という結果を残すことができました。心から感謝申し上げます。

しかし、早稲田としては個人優勝者を1人も出すことができなかったという反省もあります。今年は現状に満足することなく、さらに強くなるために部員一人ひとりが自分なりの工夫をしていく必要があると感じています。そのため女子ではインカレまでに全員の2種目自己新記録の合計で100kgを目指す「100キロチャレンジ」を行うことになりました。部員同士で切磋琢磨してインカレ連覇を果たし、再び優勝カップを持ち帰ります。

今年のインカレは男女アベック優勝することを目標にしています。私自身も日々試行錯誤を重ね、飛躍的な成長を遂げる年にするために精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

# 鈴木梨羅先輩 世界選手権で銀メダル獲得！

12月7日～17日、ウズベキスタンで開催された世界選手権大会において、鈴木梨羅先輩が見事銀メダルを獲得されました。おめでとうございます。

試合を終えての感想など寄せていただきましたので、試合結果と併せてご紹介します。

## 2021 IWF World Championships TASHKENT - UZB 07.12.2021 - 17.12.2021 WOMEN 49 kg TOTAL SENIOR

RANK	LOT	NAME	DOB	NATION	GROUP	SNATCH	C&J	RESULT
1	250	KHAMBAO Surodchana	23.12.1999	THA	A	96	105	191
2	236	SUZUKI Rira	06.09.1998	JPN	A	78	101	179
3	138	TAKAHASHI Ibuki	24.03.1997	JPN	A	71	101	172
4	197	HARIROH Siti Nafisatul	14.04.2001	INA	A	75	95	170
5	300	KINGSLEY Stella Peter	13.11.2002	NGR	A	72	96	168
6	224	DALABEHRA Jhilli	03.02.1999	IND	A	73	94	167
7	238	BERDYEVA Bagul	18.05.1995	TKM	A	74	92	166
8	314	PEREZ Ellen Rose Jorolan	28.08.1998	PHI	A	73	93	166
9	317	GIMENEZ GUERVOS Maria Jose	27.04.1993	ESP	A	73	90	163
10	16	OTOJONOVA Zukhra	02.10.2001	UZB	A	66	84	150
11	363	NTUMI Winnifred	28.09.2002	GHA	B	59	76	135
12	101	ODUOR Janet Alieno	23.12.1993	KEN	B	45	58	103
	68	DZHUMABAYEVA Yulduz	22.04.1998	TKM	A	76	-----	-----

(IWF RESULTS BOOK IWF WORLD CHAMPIONSHIPS TASHKENT 2021 より転載)



表彰台に立つ鈴木梨羅選手

いつも応援ありがとうございます。昨年12月にウズベキスタンで行われた世界選手権大会に49kg級で出場し、銀メダルを獲得することができました。2021年もコロナ渦にあって思うようにいかないこともありましたが、一年間の集大成としてこのような結果を残すことができ、たいへん嬉しく思います。

今回の試合で、1人の選手が試合に出場し成果をあげるために、どれだけ多くの方々に関わり支えてくださっているのかを改めて実感しました。試合の内容としては満足できるものではなく、自分の弱点を再認識することができたので、この経験を次に活かしていきます。

4月から社会人となりましたが、現在も早稲田大学でコーチをしながら練習させていただいており、いつも学生から刺激をもらっています。引き続き彼らのインカレでの活躍を楽しみにしているところですが、私も負けじと再び世界の舞台でメダルを獲得するために精進して参ります。

今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。

鈴木梨羅 (コーチ・R03卒)

# 松本潮霞先輩 現役引退のご報告

私が初めて早稲田大学の練習場に足を踏み入れたのは高校1年の夏でした。早稲田駅から迷子になり、当時在学中であった姉（萌波）に叱られ、大泣き。その顔のまま、鶴飼さんにご挨拶し笑われたのを覚えています。あれから15年、私 松本潮霞は2021年11月21日の全日本選手権をもちまして、選手を引退したことをご報告いたします。

早大ウエイトリフティング部関係者の皆さまには、姉共々在学中から卒業後も長い間本当にお世話になりました。たくさんのご指導、ご声援に心から感謝申し上げます。特に岡田部長はオリンピック出場に導いてくださり、今日に至るまで指導者として支えてくださいました。大切な恩師です。



最後の試技を終えた松本潮霞選手

私が持ち上げると喜んでくれる人がいる、私の挑戦を多くの方が支えてくださっている、それは本当に大きな喜びでした。心の底から完璧と思える試技、試合はありません。ウエイトリフティングは奥が深くて難しい。だからこそ、ゴールが見えなくて興味がつきません。練習以外の時間も食事も、全て強くなるために夢中であった競技人生はかけがえのないものとなりました。皆さまの支えがあったからこそ、私は夢を持ってここまで競技を続けることができました。この競技に出会った12歳から17年間、バーベルを持ち上げることができて本当に幸せでした。

早速、私にとって新しい挑戦がはじまっていますが、ウエイトリフティングを通じて見てきた世界よりも、もっとずっと世界が広く大きく感じられます。立ち止まることなく今自分がいる世界を精一杯生きて、パワーアップし続けます。

早稲田大学から一人でも多くのリフターが世界へ羽ばたくことを祈って。そしてこの素晴らしい競技との出会いによって多くの方の毎日が輝きますように。今まで本当にありがとうございました。

松本潮霞（H26卒）

## 全日本選手権結果

11月20日～23日、新潟県津南町のニュー・グリーンピア津南で全日本選手権が開催されました。

男子は、佐藤康太郎選手が73kg級でC&Jマーク183kgの大学新記録をマークし3位入賞を果たしました。

女子では、59kg級で橋本夏実選手、71kg級で伊藤紗彩選手がメダルを獲得したほか、OGも安嶋千晶選手が55kg級で3位(181KG)、柏木麻希選手が76kg級で2位(212kg)、吉野千枝里選手が87kg級で2位(205kg)と活躍しました。

令和3年度 第81回全日本ウエイトリフティング選手権大会									
階級	選手名	学部学年	体重	BEST				TOTAL	
				S	順位	C&J	順位	記録	順位
M73	佐藤康太郎	スポ3	72.88	138	4位	183 UR	1位	321	3位

令和3年度 第35回全日本女子ウエイトリフティング選手権大会									
階級	選手名	学部学年	体重	BEST				TOTAL	
				S	順位	C&J	順位	記録	順位
W55	原志歩	スポ1	54.7	80	5位	96	6位	176	5位
W59	山口千尋	スポ4	58.6	78	4位	94	8位	172	7位
W59	小堀美穂	社学4	58.12	75	8位	100	4位	175	6位
W59	橋本夏実	スポ1	59.46	84	1位	101	2位	185	2位
W71	西村深聡	スポ4	69.56	80	5位	108	3位	188	4位
W71	伊藤紗彩	スポ2	69.54	85	3位	103	4位	188	3位
W87	佐熊汐梨	社学4	86.6	80	5位	100	5位	180	5位

【学部表記凡例】スポ:スポーツ科学部 社学:社会科学部

【記録表記凡例】U:大学 R:新記録

今回は昭和47年卒・薮田雄一先輩にリレー寄稿の筆を執っていただきました。

## 第二のリフティング人生

昭和47年卒の薮田です。学生時代はライト級(67.5kg級)。故大高さんが主将、私が副将、岩永さんがマネージャーでした。一学年上が鶴飼さん、一学年下が水谷さんです。

卒業後36歳までリフティングを離れていましたが、会社の健診で脂肪肝が発覚し、医者から減量するように言い渡され、何をしようかと考えたとき頭に浮かんだのがリフティングでした。減量目的で始めたリフティングですが、体重は75kgから67kgまで8kg減り、脂肪肝も完治。目的は達成したのですがトレーニングをしているうち筋力が徐々に戻ってきて、びくともしなかつた100kgのデッドリフトが引けるようになり、スナッチ・ジャークも何とか様になってきたら色気が出てきました。

「大田区大会に出場してみたら？」とリフティング仲間からそそのかされ出場したのが運のつき、リフティングの魅力に取り憑かれてしまいました。40歳から、全日本マスターズ大会が5歳刻みで実施されていることを聞き、4年計画で「全日本マスターズ優勝！」を目標にトレーニングに励む日々が始まりました。練習場は池上スポーツクラブ、不二サッシの練習場、磯子スポーツセンターでした。



全日本マスターズ優勝の表彰式にて

4年後40歳の年、40歳から44歳のクラスに出場。会場は福岡県の宗像市でした。見事、初優勝！記録はスナッチ105Kg、C&ジャーク135kgだったと思います。それから引退するまで9度優勝することができました。マスターズ世界大会には5回出場してポーランド大会で銅メダルを獲得しました。日の丸があがり感無量でした。

ところで補助種目、スナッチ・ジャークとも、学生時代よりも第二のリフティング人生の方が記録が伸びているのです！例えば、デッドリフトが150kgから170kg、スクワットは150kgから200kgに。スナッチは107.5kgから122.5kg、ジャークは132.5kgから142.5kgに。それぞれ5kg、10kgアップ！学生時代に手を抜いていたわけでもなく必死に練習していたのに……。なぜなのでしょう？今考えても理由がわかりません！今でもミステリーゾーンです。誰か教えてください…。(笑)

以上、第二のリフティング人生を話してみました。

薮田雄一 (S47卒)

## メール配信にご協力をお願いします

クラブニュース等の広報活動について、Webサイトやメールでご覧いただく形に切り替えを進めております。当会のWebサイトは、インターネットで「稲門ウエイトリフティングクラブ」を検索してください。

また、メールで最新ニュースや試合情報など、早稲田大学ウエイトリフティング部や当会の活動状況をタイムリーにお知らせしています。

クラブニュース郵送に伴う経費等の削減を目的としておりますので、皆さまのご理解とご協力を何卒よろしくお願いいたします。(メール配信は現在170名の方にご参加いただいています)

【メール配信申込先】 [twc@coffee.ocn.ne.jp](mailto:twc@coffee.ocn.ne.jp) (幹事長 野中弘一)

【当会Webサイト】 <http://twc.server-shared.com/>



# ご支援のお願い【再掲】

コロナ禍での部活動継続に向けて以下の部財政援助を企画し、2020年度からOB・OGの皆さまにご案内しています。取り組みの趣旨をご理解の上ご協力を賜れますと幸いです。

なお、2021年度は部員4名からの出願に対し、計1,400,000円の給付を実施しています。

## 【部奨学金の安定的運用に向けた支援金の募金について】

コロナ感染拡大による経済活動への影響が長引いており、わが部においても家計支持者の収入減等のため修学の継続が難しくなる部員が出てくるのが懸念されます。志を持って進学・入部してきた後輩たちが誰一人として経済的理由により修学をあきらめることのないよう、準備しておきたいと存じます。

当会取り組みとして、部員の経済的支援を目的とした「ウエイトリフティング部奨学金」の運用が円滑に進むよう、部指定寄付による支援金の募金にご協力をお願いいたします。

※ 2020年5月に送付させていただいた総会資料に「ウエイトリフティング部奨学金運用内規」を掲載しております。

### 【募集金額】

一口10,000円（10,000円以上で任意） ※ 募金目標額・期限は定めません

### 【申込方法】

早稲田大学の寄付制度による「ウエイトリフティング部」指定寄付

※ 本制度による寄付は、寄付金控除の対象となります。

以下のURLからお申込みいただけます。

<https://kifu-form.waseda.jp/waseda/exp/explanation.htm>

[操作手順]

1. 上記URLのページで『下記(上記)の条件に同意し「寄付を申し込む」』をクリック
2. STEP1申込入力で必要事項を入力、「寄付の種類」欄で「**体育各部または早稲田スポーツ全般**」を選択、続いて「**指定先**」欄で「**ウエイトリフティング部**」を選択
3. 決済情報入力後、『入力内容確認へ』をクリック、その後、STEP2確認画面～STEP3完了へと進む

## 2021年度総会のご案内

既にご案内のとおり部や当会の活動も新型コロナウイルス感染拡大防止のため関係機関の指針に従い三密（密閉・密集・密接）を避ける工夫をしながら続けているところです。

現状を踏まえ、2021年度の総会は以下の要領にて実施させていただきます。

## 【2021年度総会の実施方法について】

予餞会同様OB・OGが集まって話し合うことが難しい状況ですので、前回同様事前に役員にて付議事項を整理した後、会員向けにメール配信・郵送にて資料を配布し付議事項等の報告を行うことで開催に替えさせていただきます。

付議事項：

- ・2021年度活動報告及び収支決算報告
- ・2022年度活動計画及び収支予算案
- ・役員を選任 他

報告時期： 2022年4月末ごろ（資料配布）

実施要領： 資料配布時に詳細を通知予定

[問い合わせ先] [twc@coffee.ocn.ne.jp](mailto:twc@coffee.ocn.ne.jp)（幹事長・野中宛て）